お話を聴いて心に勇み

～ 今こそ心の養いを！ ～

※サイト詳細は３ページに

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙(315)

今日は6月9日。北海道も過ごしやすい季節になってきました。今、不安にさいなまれる人が増えているようですが貴方はお元気ですか？つらいとき、苦しいときは誰かに言うだけでも心が軽くなります。どうぞご遠慮なく。

何か私たちにできることはないものかと自粛中の今も思います。医療に従事している人や各施設で支えておられる人たち、危険な中、仕事をしている方々には心から感謝し、お礼を言いたいと思います。私は笑顔と感謝、優しい心を自分に言い聞かせています。少し優しくなりましたか？（笑）

現在、新型コロナウイルスに感染している人は国民の1万人に1人かもう少し多い人ぐらい。感染者は累計で1万8千人弱。本日の新聞によると回復者も多く、入院や陽性のままの人は現在千人台になっているようです。その中にも亡くなられた人が9百人以上おられることはご家族にとり、とても辛いことと拝察し哀悼に耐えません。

考えてみるとインフルエンザの感染者数や亡くなる人の数に比べると、この病気に感染する人の数ははるかに少ないのですが、だいぶん分かってきたとはいえ未知の病気であることやワクチンが無いこと、感染者の数パーセントが急速に重症化して亡くなることを思えば不安にかられるのは無理もないことです。

今、世界中が自粛の中にあり、今後どれくらい続くか分からない過去経験のない事態です。しかし、こんな時こそ私たちは日々のおつとめに心を込めて信仰者らしい笑顔と感謝に満ちた日々を通りたいものです。

今、大事なことは、おつとめと優しい心。不安は解消されます。

そうは思うのですが、一ヶ月、二ヶ月ならまだしも三ヶ月以上になると精神的に耐えられない人が出そうです。心理学者も同様のことを言います。

不安はどこからくるのか？不安とは脳の中の扁桃体が興奮することだとか。

生存本能が関わっているでしょう。人間は太古の時代からとても弱い存在で、いつも外敵から身を守るため、怯えながら暮らしてきたとか。不安は人間の古代の記憶によるとも言われます。常に漠然とした不安におびえながら人間は生き延びてきました。

その名残なのか、現代のように安全な暮らしをしていても、なんとなく漠然とした不安が消えないという悩みもあるようです。さてどうしたら不安な気持ちが解消されるのか？

今回のコロナ禍に出会い、これからどうなるのか不安な気持ちの人は多いのは当然ですが、私はどうか？やはり今後への見通しで漠然とした不安を感じていました。必ず流行は終わる日が来るのだ、と自分に言い聞かせながらも意識過敏になりかけていました。

しかし突如として体感したことがあります。数十年来、毎朝夕、おつとめの際に病気の人の回復を祈ってお願いづとめをしているのですが、ふと気がつくと暖かい気持ちになっているのです。不安を何も感じません。私はこれだ！と思いました。

コロナ禍の今、不安を無くそうと思ったら、自分のことばかり思うのではなく他者貢献、人様のたすかりを願うと自分がた

お知らせ

本部神殿の各礼拝場へも、従来通りに昇殿参拝できるようになりました
（北・東・西の各礼拝場は朝つとめ30分前から。夜間は南礼拝場のみ）

6月27日からの「教人資格・教会長資格講習会」
7月期からの修養科　受け入れ開始します

※8月期以降の修養科受け入れは未定
※「教人資格・教会長資格講習会」8月期も開催準備

すかり安心の境地に到ることができることに気づいたのでした。

人間には自分さえ良ければ良いという利己的な小さな気持ちがあります。しかし自分のことだけ考えて生きようと思うとすぐに弱ってしまうそうです。逆に誰かのために頑張るぞ、と思えば活力が湧いてくるのです。生きるエネルギーや免疫力はそういうときに最高になるのです。怒りや不安は免疫力を下げます。お互い、自分以外の誰かの幸せを願って不安を吹き飛ばしましょう！

大教会や各教会への参拝などでは少しずつ日常を取り戻したいと願っています。

五月月次祭の模様

春盛りの北海道、風は温かく草木も色とりどりに茂り始めていたが、緊急事態宣言の最中、街行く人も車もまばらであった。五月の大教会の祭典も参拝者にはご遠慮頂き、おつとめ奉仕者のみで勤める事となり、前日の月例会議も中止した。

開扉献饌のち祭文奏上。祭文にて大教会長は、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息をお願いした。のち座りづとめ・十二下りのておどりが務められた。前月に引き続いて奉仕者はマスクを着用したまま勤め、交代の度に換気や消毒、参拝場ではソーシャルディスタンスを守った間隔で座るなど、感染症予防を徹底した中でのおつとめであった。

大教会長は講話にて「現在の情勢、それぞれに心配事がある中、私は特に病院が心配でした。医者や看護師を始め、様々な方が病院で働いていますが、そういった方々が一部では忌避されたり、差別を受けたりしていると聞きました。それだけ人々の心に不安な気持ちが高まっているという事でしょうか。とても残念な事だと思います。

大教会の隣の岩見沢市立病院は、コロナ感染の指定病院になっているんですね。ですから、市外からも搬送されてくるそうです。昔は結核患者の隔離病棟があり、感染症に対する専門病院だったようです。

今、医療の現場ではマスクが足りない。一般でもマスクが慢性的に不足しておりました。そのため手作りのマスクを作って、信者さんや医療機関や福祉施設に配っている教会もありました。非常にいいことですね。また、使い捨てのガウンやフェイスシールドを作って医療機関に届ける取り組みも、全国あちこちで起こっています。厳しい状況の中ウイルスとの戦いを続ける医療従事者の方々には、嬉しい心遣いではないでしょうか。

大教会でも何か力になれないか、と調べたところ、フェイスシールドを作っている会社が愛知県にありましたので、そこに作ってもらって、市立病院に寄付しようと思いました。申し出ると、『有難い事です』と快く受け入れて頂きました。ご賛同頂ける方は、少しずつでもご協力をしてもらいたいと思います。

おぢばは未だ厳戒態勢が続き、今月の月次祭も登殿しての参拝は出来ません。各教会、勇み辛い状況が続いていると思いますが、そんな中おぢばから手紙が届きました。直属教会長宛てに、表統領内統領連名での手紙です。現在の状況下での通り方について書いてくださっているので、皆さんに聞いていただきたいと思います。

『この度の、まさに突然襲い掛かってきた新型コロナウイルスの猛威により、世界中が脅威に晒され、日本国内も大混乱が続いています。

お道も世間と同様に多大なる影響を受けています。その中で、結果的に人と人が分断され、来てもらうことも行くこともできない現状で、教会長として苦悩の日々をお過ごしと存じます。

〜〜〜

そういった困難の中でも有り難いと思えることは、かつての内務省訓令下や革新の時代とは違い、教えの根幹そのものにはなにも影響を受けていないことです。その意味では先人たちが通られた厳しい道すがらに比べれば有り難く、喜んで通ることができます。

３月月次祭後に会議所で真柱様が仰せられたように、これまで私たちには、こういった全体での制限下で道を通る経験がありませんでした。教祖のひながたや 先人たちのご苦労の道を承知はしていても現実感はなく、やりたいことは何でもできて、行事も多すぎるほどできる状況に恵まれていました。このことを痛切に実感している今日ではないでしょうか。自ら信念を持ってたすけ一条の教えを人に説き、たすけ一条の実践の上に真実を込めて歩んできましたが、そのすべてがお与え頂いている結構の上でこそ成り立っていることに気づかずにいました。本当に申し訳ないことであります。

そして今、従来の常識観念を遥かに超えてお見せいただく数々の状況は、否応なく厳しい判断を突きつけてきます。おつとめ、おぢば帰り、おさづけの取り次ぎ、においがけ、ひのきしん、尽くし運び、お話や練り合い、各種行事、その他、教会活動そのものの見直しを迫られていると申しても過言ではないでしょう。

今はとにかく世界中がこの困難と不安の状況を乗り越えられるように、そして一日も早く終息を見ることができるように、国や都道府県の方針に合わせ、すべての周囲の方々と共に心と力を合わせて通り切る時であります。信仰を理由に、結果的に周囲に不安を与えるような言動が決してないように、どうか細やかに対応していただきますようお願い致します。

〜〜〜

電話や手紙や会報類、またメールやSNS、テレビ電話などによって心を繋ぐ丹精を、全力で当たっていただきたいと存じます。

そして大きな波を越えることができれば、だんだんと許されるところから活動を再開したいと思いますし、その日を楽しみにしたいと思います。

〜〜〜

立教から180年を経て、いま令和の時代に道を通る私たちは、先人が命をかけて守り通してくださったこの道を、私たちも命をかけて通る。その覚悟を定め直す絶好の機会をお与えいただいているのではないでしょうか。

どのように通り切り、末代に向けて次の人たちになにを遺すことができるのかを見据えて、従来の考え方や通り方を見直すようお仕込みいただいたことを念頭に、これからも地に足を付けてしっかりと思案しながら通らせていただきたいと存じます。

状況は日々変化しつつも、もうしばらくは不自由な状況が続くことが想像されます。節を通り切った先に芽を吹くご守護を頂戴できるように、併せてそれぞれが思召に叶う成人の歩みを進められるように、お互いの持ち場において共々に頑張らせていただきましょう。

地域によって人によって対応は様々だと思います。お悩みがあれば、遠慮なく私共にご相談くだされば結構です。よろしくお願いいたします。

立教183年5月7日

内統領宮森与一郎
表統領中田善亮『

本当に真剣に考えてお応えしたいと思います。今やるべきことといっても、手出しの出来る事は少ないかもしれません。ここは、通り方をしっかりと思案する時間を頂いたと思います。この状況も必ず意味のある事だと思います。続けることは続け、また変えるべきことは変えていかなければならないでしょう。それぞれの持ち場立場で色々と思案して頂きたいと思います」と語った。

終了後はいつもの月であれば昼食が出るが、今月はそれも無し。代わりに、お下がりに一つずつ大きなサラダパンが付けられ、おつとめ奉仕者はそれぞれに頂いて帰路についた。

教会本部各部署などの動画やサイトを活用しよう！

講習会や講座、講話など、お道のお話を聞く機会が少なくなっている状況です。心の内面を変えることや、勇み心を育むきっかけがあると思います。是非、チャンネル登録やアプリのインストールよろしくお願いします！QRコードを読み込んで、お試しください！

布教部　お話　動画

心♡陽気ぐらし

ようぼくお互いが喜びを見いだし明るい気持ちになろうとの思いから、経験豊富な講師より悟りを交えたお話（約10分）をしていただく内容です。

学生Website

はっぴすと

冊子「はっぴすと」はWeb版へ変わりました。学生に向けた信仰エッセーや、読者投稿のコーナー、学修フォトアルバムなど掲載

青年会　お話　動画

千遍

天理教の基本教理「かしもの・かりもの」のちょっといい話を毎日お届けします！見える世界もきっと変わるはず！
月曜から土曜の毎朝7時にお届けします。

スマートフォンアプリ

ワラック

お道の機関新聞『天理時報』などを刊行している天理教道友社をはじめ、婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会などが提供する刊行物の中からピックアップ記事配信

養徳社　お話　動画

陽気チャンネル

「信仰の糧」「こころの栄養」をお届けします「陽気」に執筆している方々のお話動画を配信。他にも著名人との対談など、さまざまな企画が始まります。

国道沿いに花植える

6月4日ボランティアグループ「国道みまもりたい岩見沢」の活動日。大教会長が会長であり大教会内の全員が加盟している「みまもりたい」は4年前市内幌向在住の池田智さん（※左記）の呼びかけに応じてグループを結成。市や開発局に登録。目の前の国道を美しく！との目標で花植えや草刈りを続けている。その日は大教会前の国道側歩道と駅前通り歩道に開発局から支給されたベゴニアの花苗を植えた。

池田智さん紹介

市内幌向町に住む池田氏は名古屋で定年を迎えた後、65歳からの余生は地元でボランテイア活動をしたいと思った。以来、幌向の国道沿いの花壇作りや草刈りに人々と共に汗を流して10年。2016年に夕張大教会を訪ねて来られた。「天理教さん、12号線沿いを綺麗にしませんか」と。創立120周年の前年のこと。「とても良いことなので協力します」と答えたところ、夕張の会長を責任者にボランティア団体を作ろうと言われ2017年開発局と岩見沢市に正式登録して「国道みまもりたい岩見沢」が発足した。現在、定期的に草刈りと花壇作りをしている。

会員は夕張大教会内の人が主体であり地域の人も加わっている。なぜ現在78歳の池田さんがボランテイア活動に人生を捧げようと思ったのか？それはある人の生き様に感銘したからである。中国の砂漠を緑化して日本への黄砂を止めよう、地球環境を改善しようと只一人命がけで奮闘する遠山正瑛博士の活動に参加してすっかり感化されたのだった。

遠山正瑛氏は、日本の農学者・園芸学者。鳥取大学名誉教授。中国の2万ヘクタールの砂漠の緑化に成功し、その功績から毛沢東を除くと生前に中国国内で銅像が建てられた唯一の人物、と紹介される偉人である。

かくして池田氏は会の事務局長としてコロナ禍もなんのその。元気に私たちを牽引してくださる。

訃報

由仁分教会四代会長夫人 大橋 美枝子 様（享年98歳）

由仁分教会四代会長夫人・大橋美枝子姉が5月12日、静かに出直された。享年98歳でした。

由仁ばあちゃんは、幾多の苦労の中を教祖のひながたを思って、たんのう一筋に通って、上級栗山や大教会の御用を一途に勤める教弘会長を支えて、子ども、孫たちの成人を楽しみに歩まれました。

大教会に来ては、いつもにこやかに穏やかにお話しされていたお姿が偲ばれます。ここに謹んで哀悼の意を表します。

訃報

津別分教会三代会長 大西 雅彦 様（享年75歳）

津別分教会三代会長・大西雅彦氏が、5月23日に出直されました。享年75歳。心臓病で長らく療養してきたが、病状が急変されてのことだった。

氏は昭和49年、大教会に陞級した後、青年として住み込まれ、印刷所に勤めた経験を活かし、月報「ひきよせ」の創刊から資料部長・梶川禮一先生の下で編集長として、手腕を振るった。

4歳の頃の身上から、足が不自由であったが、明るさとバイタリティで勤めていた。結婚を機に自教会に戻ったが、同じ北美部内の津別分教会会長が高齢のため、会長に推された。

永らく文書伝道と「ひきよせ」編集の上にも、ありがとうございました。

新任教会長

栗山分教会長
富山 知一 氏

このたび、5月26日ご本部教祖殿にて、栗山分教会六代会長に、富山知一氏（40歳）が、任命のお許しを戴かれました。

ウイルス感染対策により付添人も最小に留める中でのお運びでした。なお奉告祭は8月9日の予定です。

フェイスシールド寄贈

5月29日、岩見沢市立病院にフェイスシールドを届けてきました。係の方と共に院長さんが受け取ってくださり、心からの感謝を述べられました。危険を顧みず従業員は真心でつとめておられるとのことで、私たちとしても心から御礼を申し上げました。

庶務部 5月

▽お運び 5月26日
・任命
富山 知一（栗山）

大教会日誌抄 5月

（たすけ推進会議は中止）

3日 会長、直轄信者葬儀～4日
11日 藤原かおり、男児出産
藤原優士くんです
ひきよせ編集
12日 由仁分四代会長夫人お出直し
葬儀15日
14日 たすけ推進LINEミーティング
祭典準備、
15日 月次祭
20日 会長夫人、藤原かおり退院
24日 会長、おぢばへ
23日 津別分三代会長お出直し
葬儀24日
26日 本部月次祭、遥拝
27日 会長、かなめ会
28日 会長、帰会

編集後記

中国から出たウイルスが全世界を苦しめるものになるなんて、誰が思っただろうか。日本も3月末から拡大し続け、4月から自粛の嵐。天理教としても教祖御誕生祭、翌日の婦人会第百十回記念総会という大行事を縮小、または中止し、様々な講習会・研修・講演会など人の集まる事を延期・中止して、感染拡大しないように努めた。飛行機・バス・宿泊のキャンセルから、教会でも閉じこもる生活になっていた。

3月半ばのある日、コロナのクラスターが発生していた北見地方からご家族4人で参拝に来られた。この時期に北見の方から移動する事はちょっと…という時だった。しかし、もう15年も前に、このお母さんと下の娘さんが教会に下宿されていて、それから順調に進学して就職できたことのお礼の参拝だった。

3歳から5歳まで教会生活を味わった娘さん。教会で朝・夕のおつとめ後に唱える『信仰の目標』…「朝起き・正直・働き、夫婦仲良く…」というのを覚えていた。さんさい心に刻まれた信仰の種というものなのか、と嬉しかった。

6月初旬のある日、昨年11月から冬季とコロナによって参拝出来なかった夫婦が車で半年ぶりに参拝に来られた。一緒に奥さんの弟さんのご身上の回復を祈るおつとめを勤めた。あれも良かった、これも良かった、と喜ぶ事の上手な方々で、私達も久々に笑顔に溢れた。マスク生活は続く。（ま）

夕張大教会 ホームページ

夕張大教会

LINE 登録お願いします